

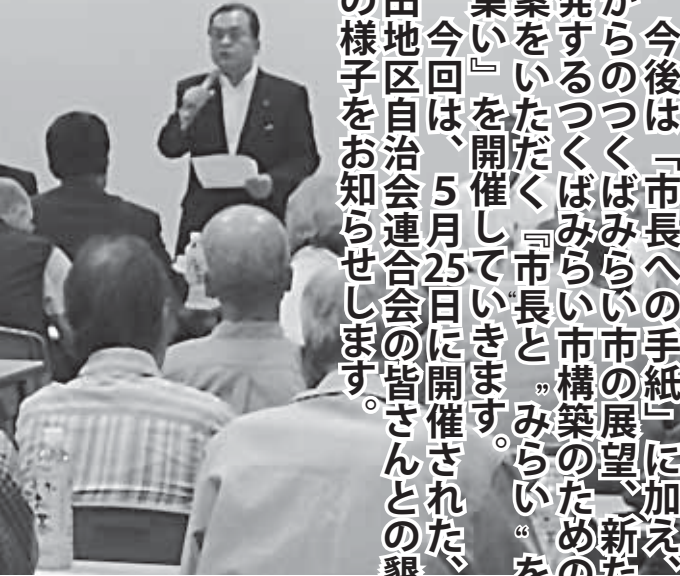
みんなで作ろう

つくばみらい

『市長と“みらい”を語る集い』

市では、より多くの市民の皆さんの声を市政に反映し、皆さんとともに、住みよいまちづくりを進めるため、平成22年10月から封書やメールなどによる提案制度「市長への手紙」を実施しています。また、市民の皆さんの声を直接市長が伺う懇談会を市内各地で開催してきました。

今後は「市長への手紙」に加え、これからのつくばみらい市の展望、新たに出發するつくばみらい市構築のためのご提案をいただく「市長と“みらい”を語る集い」を開催していきます。今回は、5月25日に開催された、谷井田地区自治会連合会の皆さんとの懇談会の様子をお知らせします。



市長 今日皆様方にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。これまで市民懇談会をいろいろな地域で実施してまいりましたが、やはりその地域の課題や要望などが非常に多く寄せられ、市民の皆さんとともに、このつくばみらい市をどのようにしていくのか、という話し合いがされませんでした。そこで、今後は、『市長と“みらい”を語る集い』という名称とさせていただきます、新しいつくばみらい市のつくり方、という方向性がいいのかということを、私なりに皆さんにテーマを提示しながら、皆さんからご提言をいただき、新しいまちづくりに反映していきたいと思っています。皆さんが考えている市政へのご提言をお聞かせください。

男性 防災大学というのが、平成13年度からスタートし、今現在も防災大学は実施されていると聞いています。これは、防災に関するリーダーを育てようというところから発足したわけで、私はその1期生です。その後、続けられているにしては、継続性というものがありません。今回のようないろいろな災害が発生している中では、もっとこの受講生を活用すべきだと思います。これまでに資格を取った人が、このつくばみらい市に貢献できるような体制にした方がよいと思います。

男性 防災無線が何を言っているかわからないので、避難してくださいと言われても難しいと思います。そこで、災害の種類に応じ、サイレンの鳴らし方を変えてみてはどうでしょうか。

こういう災害の場合は、こういう音というふうな。音だけでも判断できるようにすればいいのではないかと思います。緊急を要する場合は、防災無線を利用した、音で判断できるようなシステムを作ってみてはいかがでしょうか。

男性 まちづくりについて、二つ提言があります。一つ目は、市では「あぶにーる商店街」ということで、地元の商店を我々市民が使って活性化しているという試みがありました。これは、だいぶ前にスタートしたと思いますが、現状どの程度、これが活用されているのか、また、続いているかどうかも分かりません。せっかくの「あぶにーる商店街」をもっと活性化すべきだと感じています。もっとホームページやチラシなどでPRを